

事務事業評価シート(事前評価)

事業コード 6-2-6	事務事業名 学童クラブ施設の増設の検討	所管部課 子育て支援部 児童青少年課
----------------	------------------------	--------------------------

施策コード 創2-2	施策名 子育て支援の促進	施策目標 子どもを安心して産み、健やかに育てられる環境づくりを進めます。
---------------	-----------------	---

事務事業の概要	事務事業の目的	学童クラブは保護者が就労している等の理由により子ども（市内在住で小学校に就学しているおおむね10才未満の者）の適切な監護ができない場合に、保護者にかわって子どもを預かることを目的としている。 施設の増設に関しては、スポット的な児童数激増地域への既存施設定員超過問題等を解消するため、公共施設の有効活用等で対応をするもの。	根拠法令等	<input type="checkbox"/> 法律 <input checked="" type="checkbox"/> 条例・規則 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input type="checkbox"/> 要綱・要領
	事業内容・実施方法等	近年のマンション開発等による児童数増加に対応するため、向台小学校敷地内に増設する学校教室（プレハブ）の一室を学童クラブ用に借用する。		
	事業開始時期	平成27年度	実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他（ ）

事業費データ	項目	単位	25年度	26年度	27年度	目標 27年度
	事業費(A)			0	2,899	487
財源内訳	国庫支出金・都支出金	千円	0	0	0	0
	地方債		0	0	0	0
	その他（ ）		0	0	0	0
	一般財源		0	2,899	487	0
所要人員(B)	人	0	0.11	0	0	
人件費(C)=平均給与×(B)	千円	0	906	0	0	
臨時職員賃金等(C')	千円	0	0	0	0	
総コスト(D)=(A)+(C)+(C')	千円	0	3,805	487	0	
単位当たりコスト(E)=(D)/(施設数)	千円	0	0	487	0	

評価指標の設定	活動等指標		単位	25年度	26年度	27年度	目標 27年度
	①施設数	目標値	所			1	27
②	目標値						
《指標の説明 など》							
評価指標の設定	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	目標 27年度
	一 稼働率	目標値	%		130	95	27
実績値		%	114				
二 次	目標値						
	実績値						
《指標の説明 など》 向台小学校区域である向台学童クラブ・向台第二学童クラブの定員数に対する両学童の入所児童数（4月1日現在）の割合。平成27年度については、上記2学童に向台第三学童を加えた定員数に対する、3学童の入所児童数の割合（見込み）。							

事業環境等	市民・関連団体等の意見（アンケート結果など）	市内学童クラブ保護者代表で組織する西東京市学童クラブ連絡協議会において、大規模学童の解消への強い要望がある。	
	事業実施上における制約や財源確保等	人口の増減状況を踏まえて既存の学童クラブと統廃合させることなどを検討し、学校内施設の活用や一定年数で廃止が可能なリース・賃貸借での財源調整を図っていく。	
	代替・類似サービスの有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	多摩地域において民設民営で実施している事業者はあるが、ほとんど数が少ないのが現状である。

事業コード 6-2-6	事務事業名 学童クラブ施設の増設の検討	所管部課 子育て支援部 児童青少年課
----------------	------------------------	--------------------------

施策コード 創2-2	施策名 子育て支援の促進	施策目標 子どもを安心して産み、健やかに育てられる環境づくりを進めます。
---------------	-----------------	---

【一次評価】

検証項目		ランク	一次評価	○検証項目、評価の判断理由 ○事業化する上での課題	
A	事業の優先度 (緊急性)	2	■ 事業化	<p>平成23年度に、芝久保学童クラブの定員超過を解消するため、上向台第二学童クラブを設置したが、定員超過状態は大幅に緩和されたところである。</p> <p>次なる課題として、大規模マンションが開発された向台小学校の児童数増加に伴う向台・向台第二学童クラブの今後のさらなる定員超過状態を解消するため、向台小学校内に新設する校舎の一室を利用して「(仮称)向台第三学童クラブ」を平成27年度開設予定である。</p> <p>今後は、中町学童クラブ、ひばりが丘北学童クラブ、ひばりが丘学童クラブ等の定員超過状態解消に向けて施設の増設を検討していく必要がある。</p>	
	事業の必要性	2			
	事業主体の妥当性	2			
B	直接のサービスの相手方	1	□ 実施を延期		
	事業内容等の適切さ	3			□ 抜本的見直し
	受益者負担の適切さ	3			
C	市民ニーズの把握	2	□ 計画を中止		

検証項目の見方 A:事業実施の意義を検証する項目 B:事業の内容・実施方法を検証する項目 C:市民ニーズの反映度を検証する項目

【二次評価】

検証項目		ランク	二次評価	○検証項目、評価の判断理由 ○事業化する上での課題	
A	事業の優先度 (緊急性)	3	■ 事業化	<p>大規模マンションの建設に起因して見込まれる向台・向台第二学童クラブのさらなる定員超過に対しては、保育環境の悪化及び待機児童の発生を未然に防止するため、新たな学童クラブ施設の設置が必要と考える。</p> <p>児童の安全の確保や経費の縮減のため、新規施設については、極力敷地内に整備されることが望ましいことから、教室不足に対応するために建設が予定されている仮設校舎の利用も含め、学校や教育委員会とも十分かつ丁寧に協議する中で、整備の検討を進められたい。</p> <p>また今後、他の地域において施設増設を検討する際には、人口の動向や学校の統廃合・学区の変更等の影響把握に努めつつ、必要性を十分に検証した上で、学校施設の利用等による効率的な手法を検討することが求められる。</p>	
	事業の必要性	2			
	事業主体の妥当性	2			
B	直接のサービスの相手方	1	□ 実施を延期		
	事業内容等の適切さ	2			□ 抜本的見直し
	受益者負担の適切さ	2			
C	市民ニーズの把握	2	□ 計画を中止		

検証項目の見方 A:事業実施の意義を検証する項目 B:事業の内容・実施方法を検証する項目 C:市民ニーズの反映度を検証する項目

【行革本部評価】

行革本部評価	評価の判断理由及び事業化する上での課題等
<p>■ 事業化</p> <p>□ 実施を延期</p> <p>□ 抜本的見直し</p> <p>□ 計画を中止</p>	<p>学童クラブは、これまで需要増に対応してきており、現在31施設を運営しているところであるが、新たな大規模開発等による需要増や現状施設の定員超過の課題など、今後も学童クラブの増設について計画的に実施する必要がある。</p> <p>今後の検討にあたっては、児童推計による需要増を的確に把握するとともに、現状の利用者数の推移、学校施設の適正配置による影響も踏まえ、子ども子育て支援新制度の議論に注視した全体像を示す必要がある。</p> <p>なお、学童クラブは学校施設内と児童館併設、単独設置の形態があるが、児童の安全性や経費の面から学校施設を含めた既存公共施設の活用を原則に検討する必要がある。</p>